

日本原電に敦賀原発2号機の廃炉を求め、3、4号機の新増設をとめよ

原子力規制委員会は8月2日、敦賀2号機の再稼働に向けた申請が新規規制基準に不適合だと決定しました。福島第1原発事故後に策定された新基準で不適合となるのは初めてで、画期的なことです。これで敦賀2号機の再稼働はできなくなりました。原電は新たな証拠を探して再申請する考えを示しましたが、結論を覆すのは困難です。

東海第二のめどもたたず窮地の原電

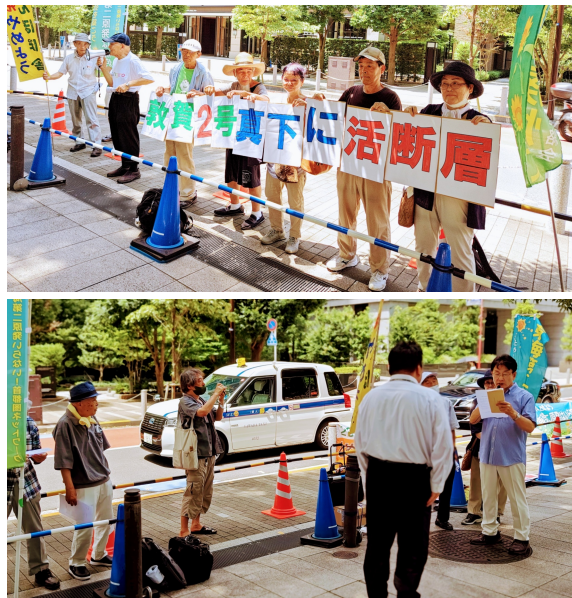
東海第二原発が防潮堤の欠陥工事で再稼働のめどが立たない中、敦賀2号機の廃炉は、原発売電専業である原電には大打撃です。しかし原電はあきらめてはいません。さらに、原発の新増設に前のめりな岸田政権を頼みにして、計画中の敦賀3、4号機の建設を急ぐ恐れがあります。しかし、能登半島地震で判明した日本海に添った長大な活断層に加え、敦賀2号機下を走る断層が活断層と判明した以上、3、4号機の立地が安全だとは考えられません。今後も敦賀原発めぐる動きを注視し、引きつづき廃炉を求めていきましょう。

柏崎刈羽再稼働で経産省等に聞き取り

7月30日、再稼働阻止全国ネットワークは、参議院議員会館で、経産省・資源エネルギー庁、規制庁等の担当者から、福島第1原発の現状、柏崎刈羽の再稼働、青森への燃料搬出の3つのテーマで聞き取りを行いました。新潟、青森からもZOOMで参加し、それぞれの思いを伝えました。福島みずほ参議院議員にもご参加いただき、能登半島地震後の視察でつかんだ重要な指摘をいただきました。

東電には原発動かす資格無し、柏崎刈羽再稼働の危険性、使用済み核燃料の青森輸送は危険で必要がない、中間貯蔵して今後どうするのか、核燃料サイクルは破綻している、エネルギー基本計画で原発依存をやめるべき、等の我々の考えを資源エネルギー庁他に伝えることができました。

規制委に敦賀2号機「不適合」再三求める
再稼働阻止全国ネットワークは、敦賀2号機の適合性を判断する審査会合が開かれた原子力規制委員会のある六本木ファーストビル前で、7月24日、26日、31日と連続し要請行動を行いました。規制委事務局に要請文を読み上げ提出しました。その甲斐あってか、26日の審査会合結果が、8月2日の規制委員会で決定されました。



六本木の規制委員会前の行動。要請書を提出

柏崎刈羽再稼働反対120名が院内集会

6月28日「柏崎刈羽原発の再稼働を許さない首都圏行動」が呼びかけられ、衆議院第二議員会館に120名が集いました。星野柏崎市議から地元の状況、青森の中道さんから青森の緊迫した状況が伝わりました。新潟の桑原三恵さんから、これまでの東電の不祥事が詳細に語られその酷さが浮き彫りになりました。東電の電気を使う首都圏で、柏崎刈羽原発の再稼働に反対する取り組みの第一歩です。



その後東電本社前に移り、社長宛に要請書を提出しました。

原発やめようニュース 反原発自治体議員・市民連盟

NO. 49 2024年9月

原電は敦賀2号と東海第二再稼働を断念し廃炉作業に専念せよ

規制委が敦賀2号機は「不適合」と決定

8月2日、原子力規制委員会は、敦賀原発2号機が新規規制基準に「不適合」と決定しました。敦賀2号機を巡っては、規制委の有識者調査団が2013年、原子炉直下に活断層があるとする報告書をまとめた後に、原電の申請した資料に約80カ所に及ぶ無断書き換えや約1300カ所の誤記が見つかり、審査は2度中断されました。資料の書き換え部分は、活断層の可能性のある地層が固まっていない「未固結」と評価した部分を、地層が固まっている「固結」と書き換えるなど、再稼働をねらう意図的なもので、原発を運転する事業者にあるまじき姿勢でした。今回の敦賀原発2号機を「不適合」とした判断は遅きに失したとは言え、当然な結果です。

防潮堤欠陥工事は修復も建て替えも不可能

東海第2原発の防潮堤基礎部分の欠陥工事に関し、規制庁は適合審査で、原電側に当該部分の建て直しを含めた検討を求めました。これに「7月中の回答は難しい」としていた原電が、8月7日規制庁に対し、「基礎部分を残したまま補強工事を進める」との方針を伝えていたことがわかりました。この方針について、8月下旬にも規制庁の審査が行われる予定です。

果たして欠陥のある基礎部分を残したままの補強だけで防潮堤の安全が保てるのか。原電の詳細な計画は未だわかりませんが、その場しのぎのものにならざる得ないと不信が拭えません。

不祥事が絶えない安藤ハザマの発注停止を

防潮堤工事を担った安藤ハザマが、原電が

反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行（岩内町議会議員）
福士敬子（元東京都議会議員）
武笠紀子（元松戸市議会議員）
野口英一郎（鹿児島市議会議員）

員）
議員）

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東3-36-14-301

Tel/Fax 03-3317-0356

郵便振替 00110-7-449067

値切った低価格で請負ったことが発端でした。鹿島をはじめ大手ゼネコンからはどこも断られています。

そもそも安藤ハザマは、福島第一原発事故の除染事業で、作業員の宿泊人数や宿泊単価を改ざんし8000万円水増しした件で有罪判決が出され、3ヶ月の指名停止処分を受けた悪徳企業です。2018年多摩テクノロジービル建設現場で火災が起き作業員5名が死亡、業務上過失致死傷と業務上失火で書類送検され、2018年3月期までの5年間で約2億5千万円の所得隠しで2019年東京国税局の税務調査を受けるなど不祥事には事欠きません。このような事業者到低価格で安全対策工事を託す原電に大きな責任があります。直ちに安藤ハザマへの発注をやめて、東海第二原発の再稼働は断念するよう求めます。

8月24日（土）

stop東海第二再稼働いばらき大集会

13時半 水戸市・駿優会教育会館

9月23日（月・休日）

老朽原発うごかすな！高浜全国集会
～地震も事故もまったなし～

高浜町文化会館

12月8日（日）

とめよう！原発依存社会への暴走
関電包囲大集会

関電本店前

「9.23老朽原発うごかすな！高浜全国集会」～地震も事故もまったなし～ お集まりください！

若狭の原発を考える会 橋田秀美

本年元日に発生した能登半島地震（震度7）以降、4月には豊後水道地震（震度6）、そして8月8日に日向灘地震（震度6弱）が発生。日向灘地震では、「南海トラフ地震臨時情報」導入後、初めての「巨大地震注意」が出されました。日本列島は激しく動いています。このような状況でも政府は原発依存への暴走を加速し、そのお先棒を担ぐ関電は、既に老朽原発3機（美浜3号、高浜1号、2号）の40年越え運転を強行し、来年には高浜3、4号機の40年越え運転を画策しています。

また、関電の使用済核燃料を保管するプールは、満杯に近く、原発稼働が危ぶまれる中、「使用済核燃料の中間貯蔵地へのより円滑な搬出の為」として、原発敷地内での乾式貯蔵に着手しています。中間貯蔵施設は2030年には操業を開始すると言っていますが、何の目

途もたっていません。ひとえに、「原発継続運転」のための策略です。

「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、「老朽原発ただちに廃炉！」「原発依存の政府、関電を許すな！」を訴えるため9月23日（月・休）、高浜町文化会館において表記の



全国集会を開催します。珠洲市の北野進さん、樋口英明元裁判長の講演と各地からのアピールをいただき、集会後は、高浜町内をデモ行進します。全国からのご結集をお願いします。

能登半島地震の教訓を生かしてすべての原発廃炉に！

関西ブロック第8回総会が盛況

関西ブロック 二木洋子

7月15日、第8回総会、記念講演会をクロスパル高槻で開きました。総会では、活動報告や2024年度活動方針を承認、新たな一步を踏み出しました。

記念講演会は、北野進さん（元石川県議、元珠洲市議、志賀原発廃炉に！訴訟原告団長、連盟会員）の『能登でのたたかいー珠洲と志賀』と題した講演でした。珠洲原発は関西電力、中部電力、北陸電力の3社が計画していましたが、反対運動で断念に追い込みました。

75分、70枚のスライドを使つての講演では、1月1日の能登半島地震で珠洲原発予定地が隆起などで大きく地形が変わったことや、珠洲原発阻止の地域あげての粘り強い闘い、停止中の志賀原発（北陸電）反対運動などの報告のあと、北野さんは、「能登半島地震の教訓を今こそいかすべき」「志賀原発を突破口に脱原発社会へ」と結ばれました。住民運動から県議を押し出し、かつ原発建設を阻止した

珠洲原発反対運動の勝因は、「住民合意」の阻止、そのために、市長選、市議選、県議選、知事選等で、原発反対の民意を示し続ける、共有地運動で用地買収を阻止し、漁業権を守るための漁協の固い結束、をあげられました。この闘いに学ばなければと思います。

木原壮林さん（若狭の原発を考える会）は、「使用済み核燃料の発生源・原発の全廃を！」と題して25分の講演、使用済み核燃料の冷却プールの建設を止めれば、原発を停止に追い込めることがよく分かりました。参加者はオンラインも含め90名、各地の皆さんと連帯してがんばります。



川内原発北側1キロの川内川河口が活断層の可能性！

日向灘震源とするマグニチュード7.1の地震発生

鹿児島市議会議員 野口英一郎

7月4日、川内原発1号機が20年延長に入り抗議集会が行われました。昨年猛暑のなか懸命に集めた46112人の県民投票請求署名をあっさり踏みつぶした塩田県知事が再選する目前でした。

これまでは抗議のたびに発電所正面ゲート周辺に集まりましたが、土地の交換と道路の付け替えが（写真参照）行われて、4日の朝は原子炉建屋が直接は見えない海岸に近いフェンス前に集いました。

集会では、「珠洲原発が無くてよかった」「避難計画の虚構をどのように社会的な共有理解とできるか？」「エネルギー基本計画で3号機増設が再懸念される」「7年後にプールが満杯だから今年か来年に敷地内乾式貯蔵庫の建設計画を出して来るのでは、そのまま最終処分地になるのではないか」などのスピーチがありました。

8月2日、敦賀原発2号機が直下の活断層を事由に再稼働不認可という合理的な判断がありましたが、私たちは川内原発直下のすべての活断層

を把握出来ているとは到底思えません。

2022年12月に規制庁は九電に対して未知の震源による地震を新しい手法で評価するように要求しました。1999年の九州大学・下山正一論文で川内原発北側1キロメートルの川内川河口が活断層の可能性が指摘されました。このことについて、石油採掘などに使われている三次元探査の実施を九電に求め続けます。

こうした中、8月8日宮崎沖日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この状況からも地震大国のエネルギー政策として1日も早く原発のない社会の実現が求められます。



川内原発北側1キロメートルの川内川河口が活断層の可能性が指摘されました。このことについて、石油採掘などに使われている三次元探査の実施を九電に求め続けます。

伊方原発このまま廃炉！

伊方から原発をなくす会 名出真一

伊方原発は、1・2号機の廃炉が決定し廃炉作業中、3号機は7月19日から定期点検のために停止しています。現在四国には原発の電気は一切ありません。そもそも伊方原発建設の時に、県や町と四国電力は原発は2機までと約束しながら、いとも簡単に踏み躪りました。本来四国にはもう原発はないはずです。

元旦に起きた能登地震は、半島における避難の困難さ、原発計画がいかに建設ありきでずさんなものであるかを明らかにしました。そして8月8日に起きた日向灘地震は、南海トラフ地震の危険性を警告してきました。

伊方原発は目前に中央構造線断層が走っており、住民は二つの巨大地震を恐れています。しかし、四国電力は「伊方原発の敷地は強固な岩盤なので南海トラフ地震が直下で起こっても181ガルしか揺れない」と信じられないこ

とを言っています。規制庁伊方事務所は「私たちは検査の専門家で、原発の専門家ではない。規制基準を満たしているかどうかを検査しているだけ」と、「安全かどうかは知らない」と言わんばかりです。住民は「私たちはどうせ逃げられない。見捨てられている」と諦めています。一私企業の利益や一部の学者や政治家の利権のために住民を危険に晒していいなどという道理はありません。私たちは8月11日に現地集会（写真）を行い、「伊方原発このまま廃炉」の声を上げました。今後も廃炉を勝ち取るまで闘い続けます。



伊方原発このまま廃炉」の声を上げました。今後も廃炉を勝ち取るまで闘い続けます。